

子ども会育成だより

上田市子ども会育成連絡協議会

No. 48号
3月1日発行
編集・発行
上田市子ども会
育成連絡協議会

冬の自然体験教室「スノーモンスター・樹氷を親子で只に行こう」

平成31年2月16日(土)



①南極観測時に使われる車両と同じモデルのスノーキャット。ベルを鳴らしながらぐんぐん雪山を登ります。根子岳中腹に到着。雪山探検の始まりです。



暖冬・雪不足が心配され今年の冬、「日本のダボス」と言われる菅平高原奥ダボススノーパーク・根子岳において「冬の自然体験教室」を開催し、4家族13名の参加者とスタッフ合わせて21名が寒さにめげずに冬の自然を満喫しました。



②濃霧に包まれた山の中、目を凝らして避難小屋を見つけ、ザクザクと雪を踏みしめ避難体験。小屋には、ダルマストーブと薪が用意されていて20人ほどは入れそう。万が一の時には、ここで暖を取って天候の回復を待つのかな？



③スノーシューを装着してゲレンデの外から森の中へ。スキーでは入れない特別のコース。斜面は、お尻滑りと肥料袋をソリにしてダイナミックに滑り降ります。木にぶつからないようにコース取りを考えます。



⑥菅平アリーナロビーで温かい手作り豚汁とおにぎりの屋食。からだを動かした後の食事は格別ですね。



④事務局手作りのアイスクリーム液を雪を使って凍らせます。スーパー袋の中で雪と塩を混ぜて、ビニールに入ったアイスクリーム液を包みモミモミ約5~6分。菅平ジェラートのお味は、いかが？



ブロックだより (その1)



⑦木の枝にねじをはめ込んで野鳥の鳴き声を作り出します。木の種類、大きさ、太さ、作人の個性によっていろんな鳴き声になりました。麻ひもを付けてペンダントにもインテリアにも素敵です。

⑤森の中をそれぞれのペースで歩きます。音の無い白銀の世界が広がり、子どもたちは、走り抜けて行きますが、大人は付いて行けません。

『あそびの運動会』

神川育成会ブロック理事 下條 美香

神川育成会は十三地区から成り立つ育成会です。活動はブロック単位で行っています。十月二十八日にあそび環境ミュージアムアフター・バーバン北信越より清水さんをお招きして『あそびの運動会』を開催しました。男女・学年を問わず多くの児童と保護者の参加のもと、清水さんの楽しいトークと指導で色々なあそびを体験しました。大人もついつい本気になってしまいました。「梅干しを食べたのは誰だ？」ゲームでは子供達の迷？演技に爆笑してしまいました。シートリレーでは子どもと大人の順番を考えながらそれぞれシートに乗せて運び汗ダクになりました。子供達が大人を運ぶ時は「おもい〜」と叫びながらもとても楽しそうでした。もっとやりたい!!と子ども達の声がある中、あっという間に時間が過ぎてしまいました。新たな友達もでき有意義な活動となりました。

「情報モラル講演会—子どもとメディア—」

を開催しました。

「メディア機器の使用には、子どもの心の育ちを壊す危険性があるため、「年齢制限」「適量」があること。」「子どもに危険が迫るときは、憎まれてでも危険から守る覚悟が必要であり、都合のいい大人にならないこと。」「など地域社会を含めた青少年育成に関わる大人がどのように考え行動するべきなのかを学びました。



子どもたちのスマホ・タブレット機器等への依存傾向が進み、心身への影響が深刻化したり、ネット上のいじめや犯罪に巻き込まれたりする心配が高まっています。

10月25日(木) 上田創造館文化ホールにて「ネット社会に生きる子どもたちと大人の役割」と題し、みやばやしこどもクリニック院長 宮林麻里氏に小児科医の視点から、子どもたちの現状や家庭・地域で活かせる子どもたちへの関わり方を講演いただきました。

ブロックだより (その2)

材木町子ども育成会の活動

材木町育成会 永山 美和

材木町育成会では、ボーリング大会、歓送迎会などの活動が一年を通して行われています。

クリスマス会では、みんなでラジオ体操を3回やってお腹を空かせてから、ひとり一つずつケーキデコレーションをし、お昼ご飯と一緒に食べました。

また、夏には祇園祭、上田わっしょいに参加しました。今年も一年生から六年生まで沢山集まり、大きなかけ声を出しながら御神輿を担ぎました。

わっしょいでは、地域の方に踊りの先生として来ていただき、三日間練習をし当日に臨みました。

一つ一つの活動が子どもたちの楽しい思い出になってくれたことと思います。



平成30年度 長野県青少年健全育成県民大会

11月10日(土)

～諏訪市～



青少年が心身共に健全に成長することを願い、青少年育成関係者の研修の場である「長野県青少年健全育成県民大会」に上田市子ども会育成連絡協議会から会長、副会長、理事の5名が参加しました。

「スマホ時代の子どものために」と題した兵庫県立大学准教授 竹内和雄氏の講演では、地元の高校生が、講師との対談形式で事例を発表しながら、実際に使用しているアプリを紹介し、それぞれの想いを語りました。

子どもが見る親の姿

武石ブロック 山岸 誠

武石地域では現在8つの育成会が活動しております。活動内容は、それぞれの地域で代々行ってきたもの、新しい試みで始めたものと工夫を凝らした活動は様々ですが、参加する子どもも年々減少しているのが実情の様です。根本的に児童数が少ないことに加え、現代の子どもの忙しさを考えると、現代の子どもたちはクラブ活動や習い事等でとても忙しい様です。私達が子どもの頃に比べると身近な自然や地域の方々と触れ合う機会が少なくなっていると感じます。

そのような中で育成会の様々な活動は大きな意味を持っていると思います。活動を支える保護者においても、いつかは回ってくる役員に重荷を感じている方も多く様です。企画運営する側の労力や気配りは大変なものがあると思えますが大人たちが協力し支え合い、事を成し遂げる姿は子どもたちの記憶にもきっと残っていくのではないのでしょうか。

給付がありました！

安全共済会加入

給付状況について



上田市内の全国子ども会安全共済会への加入状況は、10,724名(1月31日現在)です。

今年度は、育成者を含む8件の事故発生報告があり、うち7件の給付金請求を行いました。

ケガの状況については、骨折3件、靭帯損傷2件、捻挫、やけど、ハチ刺傷各1件と完治まで時間を要するケガが多く、日常生活への負担がうかがえました。

各育成会においては、定期的な危険予知トレーニング(KYT)の実施、事前の会場の下見など安全の確保、そして万が一事故が起ってしまったときの対処法、救急法等の習得をお願いいたします。

スマホサミット in ひょうご 2018 に参加してきました!!



突然ですが、左枠内の言葉の意味を知っていますか？

LINE/ツイッター/インスタグラム/ストーリー/キミマチ/PUBG/荒野行動/フォートナイト

皆さんはいくつ分かりましたか？
これらは、子どもたちが遊ぶアプリやゲームの名前です。今や小学生の約3割がスマートフォンを所持し、約6割がインターネットを利用している時代だそうなんです(竹内和雄 兵庫県立大学准教授 調べ)。皆さんも肌で感じていることかと思いますが、この傾向はますます強くなっていくことでしょう。

前述の竹内氏はこうした傾向を食い止めるのではなく、まずは子どもたちの現状を真正面から受け止めることから始めています。サミットでは、「今のスマホ/ネットの使い方」「正しくスマホ/ネットと付き合うためには？」などの話題に対し、代表して登壇した中高生と竹内氏との話し合いが展開されました。



子どもたちの話では「一方的にスマホ/ネット利用方法について決められてしまうのは嫌だ」「長時間にわたる利用が様々な弊害をもたらすことは分かっているが、それでもやめられない」「まずは大人にその実態を知ってほしい」との切実な想いが聞けました。

すでにお子さんにスマホ/タブレットを持たせている、あるいはこれから持たせようと考えているご家庭の皆様、まずはその利用方法についてお子さんと一緒に話すことから始めてみませんか。

編集後記

日中の暖かな日差しに春の訪れを感じ、さくらの開花を心待ちにする季節ですね。

四季折々、各育成会においては、自然や文化を大切にしたい体験活動を行っていただき、ありがとうございます。子どもたちの笑顔を見るとき、心が温かくなります。来年度も、たくさん笑顔と笑い声に出会える活動を企画中です。ご期待ください！

(事務局 中村)

